

阪大NOW

地域に生き世界に伸びる

No.94
2007

1
月号

年頭所感

迎春「大阪大学を想う」

大阪大学総長 宮原 秀夫

トピックス

大阪大学・大阪外国語大学統合が大きく前進



迎春 — 大阪大学を想う —

大阪大学総長

宮原 秀夫

新年明けましておめでとうございます。

皆様におかれましても、それぞれ新たな感慨を持って新年を迎えられたことと存じます。

大阪大学も国立大学法人へと変革してから、早くも3回目のお正月を迎えることとなりました。我々の「教養、デザイン力、国際性」の涵養という教育目標は、大阪大学構成員のみならず広く学外の方々にも徐々に浸透し理解していただけるようになったと思います。その功あってか、国立大学法人評価委員会における業務運営評価において、平成17年度は平成16年度よりさらに高い評価を受けることができました。これもひとえに構成員一人ひとりの質の高い活動の結果によるものと思ひ、総長として、ここに改めてお礼と感謝を申し上げます。



1月4日 事務局

さて、国立大学法人評価委員会による業務運営評価では、「財務内容の改善」「自己点検・評価及び情報提供」「その他業務運営に関する重要事項」の3項目については、それぞれが5段階で“4”の評価を、「業務運営の改善及び効率化」については、最高の“5”の評価を受けました。“4”の評価は、「順調に進んでいる」、 “5”の評価は、「特筆すべき進捗状況にある（国立大学法人評価委員会が特に認める場合）」となっています。

この“5”の評価を受けたのは、7国立大学の中で大阪大学が唯一であり、大阪外国語大学との統合が高く評価された結果であります。この統合は、両大学の特長を活かしつつ多彩な教育研究を新たに展開することにより、国際社会の中で日本の果たすべき真の役割を担い得る国際的人材を養成することを目指して、第一期中期目標期間（平成16年度から平成21年度まで）中に実現すべく我々が設定した最大の中期目標であります。

また、国立大学法人評価は、これまでは業務運営評価にとどまっていたが、平成20年度からは教育・研究評価が実施されることになっています。私は、これまで各所で“評価”の難しさについて申し上げてきましたが、こと教育・研究評価、中でも個人評価となると、さらに困難が伴うものと思っています。大阪大学は、これまで部局レベルでの組織評価は行うものの、大学全体としては、研究者一人ひとりの個人評価は行わないという姿勢をとってきました。しかしながら、今後は国の大勢として個人評価に向かうことは否めず、大阪大学としても、その対応を早急に検討しなければならない状況になってきたと思います。

ところで、ここ最近“評価”と並んで色々な指標による“ランキング”が話題になっています。事実、海外の大学学長との会話の際には、“大学ランキング”というものが出てまいります。私自身“たかがランキング”ではないかと思っておりましたが、どうも“されどランキング”の意味合いの方が強いようです。昨年11月、大阪大学がタイのバンコク市に大阪大学バンコク教育研究センターを設置し、その開所式には、チュラロンコン大学やマヒドン大学をはじめとするタイ有数大学の学長に出席していただきました。その際にもやはり“ランキング”が話題になり、チュラロンコン大学の学長からは、開口一番“congratulations”との挨拶を受けました。学長は、2005年に一旦100位以下となってしまう大阪大学のランキングが、2006年は100位以内に回復したことを事前に調べて知っていたようです。



1月4日 新年賀詞交歓会（千里阪急ホテル）

ただ、このランキング評価というのは絶対のものではなく、その方法には幾つか問題点があるかと思えます。ランキングづけを行う際の評価項目の中には、単に知名度や人気度などによるものがあり、それらにより全体のランキングが大きく左右されることがしばしばあります。例えば「Google」などで検索を行った際にも現れる現象です。つまり、検索結果は、情報のランキングの順に従って表示されるということです。留意すべき点は、この表示の順を決めている情報ランキングは、これまでに閲覧され

た回数やそれに貼られたリンク数などによって決められているという点です。その結果、多数派意見が実際の割合以上に多数を占めているという誤解を与える可能性があり、そのため、少数派意見が無視されがちになるという危険性があります。すなわち、氷山の一角しか見えないこと、しかも多数派の占める見方（それは、もの見方の一面でしかないのですが）が提示され、多様なもの見方が阻害されることに繋がります。

これは、個人の多様性や、さらには文化や文明の多様性を認めた上でコミュニケーションがはじめて成立するという人間社会、国際社会の発展を阻害する要因になりかねない問題だと考えます。このようにランキングについていろいろな課題はありますが、我々の行っている教育研究業務に係る評価、それに基づくランキングづけは今後ますます強まる傾向にあることは間違いないと思います。

前述しましたように、これまで大阪大学は、どちらかと言えば、評価やランキングにそれほど関心を払わなかった面がありますが、平成20年度から予定されている大学評価・学位授与機構による教育・研究評価に向けて、我々自身の考え方をしっかりと整理しておく必要があると思います。

今年は、いよいよ大阪外国語大学との統合が実施される年であり、これは、大学法人化以後我々が取り組んできた諸々の改革の中でも最大のものと位置付けています。大阪大学が大きく変わろうとするこの統合がスムーズに実行されるよう、そして、さらなる発展に繋がるよう構成員全員のご支援とご協力をお願いし、年頭の挨拶といたします。

題字は宮原総長自筆によるものです。

大阪大学・大阪外国語大学統合が大きく前進

昨年3月23日、大阪大学と大阪外国語大学は、統合推進について合意書を締結しましたが、同11月30日に文部科学省から、大学設置・学校法人審議会の審議において、統合計画を可とする旨の通知がありました。

このことにより両大学は、今年10月1日の新生大阪大学誕生に向け大きく前進しました。



これまで大阪大学と大阪外国語大学は、国立大学法人化の際に策定した双方の大学の中期計画に基づき、平成16年5月に両大学間に大阪大学と大阪外国語大学との連絡協議会を設置し、以後、両大学の統合についての協議を重ねてきました結果、平成18年3月、「大阪大学と大阪外国語大学は、両大学の特長を活かしつつ、多彩な教育研究を新たに展開することにより、国際社会のなかで日本の果たすべき役割を担い得る国際的人材を養成することを目指して、両大学の統合を推進する」ことについて合意しました。

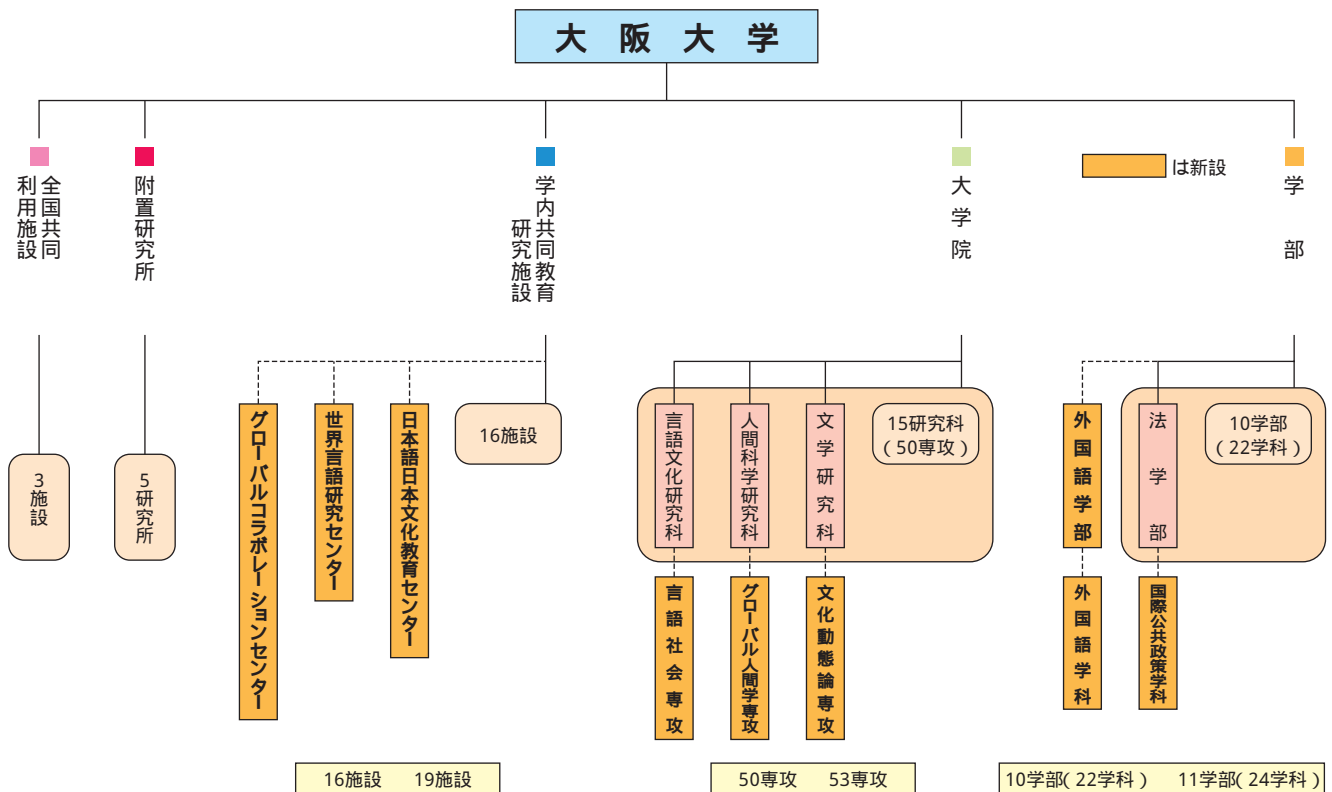
この合意に基づき、両大学間に大阪大学・大阪外国語大学統合推進協議会を設置し、「統合の時期は平成19年10月1日、統合後の学生受入れは平成20年4月1日を目標とし、統合後の大学の名称は『大阪大学』とする」方向で協議を進め、双方の大学の教育研究評議会の議を経て、平成18年4月、文部科学大臣あてに、大阪大学及び大阪外国語大学を統合し、新たに大阪大学を設置する旨の大阪大学設置計画書を提出しました。

このたび、平成18年11月30日付けで、本設置計画について、文部科学省から、大学設置・学校法人審議会において審議が行われた結果、可とする旨の通知がありました。

なお、当該設置計画を含めた、現在両大学間で検討が進められている統合に伴う学部及び大学院の組織再編案については、次頁のとおりです。

大阪大学と大阪外国語大学との統合については、今後、統合に係る予算の成立、国立大学法人法の改正が行われた上で確定することになります。

統合に伴う教育研究組織の改編



【学部関係】

新設

学部名	学科名	入学定員
外国語学部	外国語学科	580人 3年次編入学定員 10人
法学部	国際公共政策学科	80人

入学定員の変更

学部名	学科名	入学定員
理学部	生物科学科	25人 55人
基礎工学部	情報科学科	68人 83人

【大学院関係】

新設

研究科名	専攻名	専攻等名
文学研究科	文化動態論専攻	修士課程 19人
人間科学研究科	グローバル人間学専攻	博士前期課程 19人 博士後期課程 8人
言語文化研究科	言語社会専攻	博士前期課程 35人 博士後期課程 13人

入学定員の変更

研究科名	専攻等名	専攻等名
文学研究科	文化形態論専攻	博士前期課程 40人 38人
	文化表現論専攻	博士前期課程 42人 37人
人間科学研究科	人間科学専攻	博士前期課程 79人 70人 博士後期課程 38人 34人
経済学研究科	経営学系専攻	博士前期課程 23人 33人
理学研究科	生物科学専攻	博士前期課程 46人 54人
基礎工学研究科	物質創成専攻	博士前期課程 78人 87人
	機能創成専攻	博士前期課程 39人 45人
	システム創成専攻	博士前期課程 66人 73人
言語文化研究科	言語文化専攻	博士前期課程 30人 32人
情報科学研究科	コンピュータサイエンス専攻	博士前期課程 14人 17人
	情報システム工学専攻	博士前期課程 15人 18人
	情報ネットワーク学専攻	博士前期課程 17人 20人
	マルチメディア工学専攻	博士前期課程 17人 20人

コースの新設

研究科名	専攻名	コース名
経済学研究科	経営学系専攻	博士前期・後期課程 グローバル・マネジメントコース

名称変更

研究科名	旧専攻名	新専攻名
言語文化研究科	言語文化学専攻 博士前期・後期課程	言語文化専攻 博士前期・後期課程

新役員紹介

佐々木 順 司 (ささき じゅんじ)

理事・事務局長



【略歴】

- 昭51. 4 文部省入省
- 平 4. 7 同 大臣官房企画官
- 平 7. 7 文化庁宗務課長
- 平 9. 7 文部省体育局学校健康教育課長
- 平11. 7 同 学術国際局学術課長
- 平12. 7 同 大臣官房主任行政改革官
- 平13. 1 日本学術会議総務部長
- 平14.11 東京工業大学事務局長
- 平17. 1 衆議院調査局文部科学調査室首席調査員
- 平19. 1 国立大学法人大阪大学理事・事務局長

第6回大阪大学フォーラム開催

平成 18 年 12 月 4 日(月)～ 5 日(火)、第 6 回大阪大学フォーラムがカリフォルニア州サンディエゴで、本学とカリフォルニア大学サンディエゴ校との共催で開催されました。「Frontier of Biomedical Research and Beyond」(医科学研究の最前線とその未来)をテーマに 2 日間にわたって、基調講演やセッションが行われ、約 240 名が参加しました。

本フォーラムの詳細については、2 月号で報告します。

(研究推進・国際部国際交流課)



Jamey D. Marth教授(カリフォルニア大学サンディエゴ校)の講演



講演風景



レセプション

研究倫理・公正にかかる総長見解

論文データねつ造等の不正に関しまして、大阪大学では、平成18年12月20日に記者会見し、調査内容、関係教員の処分等について公表いたしました。大阪大学では、今回の事態を非常に重大なことと受け止め、研究倫理の遵守と再発防止の徹底を教職員、学生に注意を促すため、総長見解を表明いたしました。（ホームページにて公表しております。）

総長見解

平成18年12月20日に開催しました本学の教育研究評議会は、研究遂行においてデータをねつ造・改ざんするという看過することの出来ない不正行為をおかし、本学の社会的信頼を大きく失墜させた事由により、本学教授の懲戒解雇を決定しました。全学を挙げて研究倫理・公正の確立に取り組んでいる最中に、このような事態をもたらしたことに付いて、社会的責任を痛切に感じております。

大阪大学は、開学以来、教育研究における自由闊達な気風を良き伝統として引き継ぐ中で、我が国を代表するだけでなく、世界的にも認知される大学としての地位を維持してきました。その歴史は、時代時代の教職員が、献身的に、かつ、真摯に学問研究に取り組むことにより築き上げられたものです。

本年、本学は二度に亘り、研究での不正行為による教員の懲戒処分を決定しました。このことは極めて異例の事態です。これらの不正行為は、本学で教育研究に携わる殆ど全ての教職員の真摯な活動を冒瀆するとともに、本学の教育研究に対する信頼を失墜させ、本学の名誉を著しく傷つけたもので、大阪大学総長として誠に遺憾に思う次第です。

このような研究上の不正行為が本学において極めて例外的なものであることは明らかであるにしても、全教職員がこれらの事態を深刻に受け止め、本学が今、失墜した社会的信頼を取り戻すだけでなく、より強い信頼を獲得し、社会的責任を果たして行くことを新たに再確認し、強い決意で取り組む所存であります。

平成18年12月21日

大阪大学総長 宮原秀夫

第2回大阪大学ホームカミングデイ

第2回大阪大学ホームカミングデイを、平成19年4月30日(月・休日)に開催することになりました。（いちよう祭は、4月30日(月・休日)及び5月1日(火)に開催します。）

ホームカミングデイの詳細は決まり次第、大阪大学同窓会連合会ホームページ（<http://www.osaka-u.ac.jp/jp/dousoukai/top.html>）に掲載いたします。

<問い合わせ> 大阪大学同窓会連合会本部事務局 TEL:06-6877-5111 内線3149

(総務部企画推進課)

平成19年の主な行事日程

- 1月：平成19年度大学入学者選抜大学入試センター試験（20日～21日）
- 2月：平成19年度個別学力検査等（前期日程）（25日～26日）
- 3月：平成19年度個別学力検査等（後期日程）（12日）、卒業式・大学院学位記授与式（23日）
- 4月：入学式（2日）、第2回大阪大学ホームカミングデイ（30日）、いちよう祭（30日～5月1日）
- 8月：総長任期満了（25日）
- 10月：大阪大学・大阪外国語大学統合（1日〔予定〕）
- 11月：まちかね祭（1日～5日）

記 念 講 義

平成 19 年 3 月 31 日限りで定年等により退職される教授の記念講義を、日程等が決まったものについてお知らせします。

部局(講座・部門等)	氏 名	日 時・場 所	講 義 題 目
文学研究科 (文化形態論専攻日本史講座)	猪 飼 隆 明	3月13日(火)14:40～ 文学研究科41番教室	私の、天皇制への迫り方(仮題)
理学研究科 (化学専攻無機化学講座)	海 崎 純 男	3月5日(月)13:30～ 理学研究科D501号室	錯体化学研究40年を振り返って
理学研究科 (化学専攻物理化学講座)	山 口 兆	3月5日(月)10:30～ 理学研究科D501号室	化学結合の理論 回顧と展望 - スピン・電子間相互作用を中心として -
理学研究科 (化学専攻有機化学講座)	長 谷 純 宏	3月5日(月)15:30～ 理学研究科D501号室	糖鎖の蛍光標識法
理学研究科 (宇宙地球科学専攻極限物質学講座)	河原崎 修 三	3月8日(木)16:00～ 理学研究科D501号室	金属磁性研究30年
医学系研究科 (内科系臨床医学専攻内科学講座)	荻 原 俊 男	3月7日(水)15:15～16:45 医学系研究科A講堂	老年医学の展望 - Successful Agingをめざして
医学系研究科 (病態制御医学専攻医用工学講座)	田 村 進 一	3月2日(金)16:00～17:30 医学系研究科A講堂	画像解析と医学応用40年
工学研究科 (機械工学専攻複合メカニクス講座)	辻 裕	1月24日(水)10:30～12:00 工学研究科機械工学専攻M4棟 101号室	2つのリュウタイ「流体と粒体」
工学研究科 (電気電子情報工学専攻創製 エレクトロニクス材料講座)	佐々木 孝 友	3月14日(水)15:00～16:30 医学部銀杏会館阪急電鉄・三和 銀行ホール	新機能性結晶の開発とその産業応用
蛋白質研究所 (蛋白質構造生物学研究部門)	阿久津 秀 雄	3月16日(金)15:30～17:15 蛋白質研究所1階講堂	生体系高分解能核磁気共鳴法の未来
蛋白質研究所 (附属プロテオミクス総合研究センター)	松 浦 良 樹	3月16日(金)13:30～15:15 蛋白質研究所1階講堂	一足半のわらじで歩んだ蛋白質結晶 の道
生物工学国際交流センター	関 達 治	3月9日(金)15:00～16:30 医学部銀杏会館阪急電鉄・三和 銀行ホール	醗酵工学と東南アジアとの国際交流
レーザーエネルギー学研究センター (パワーフォトンクス研究部門)	中 塚 正 大	2月21日(水)15:00～ レーザーエネルギー学研究センター 研究棟4階大ホール	もの見方と歴史



表紙写真：共通教育本館玄関スタンドガラス
撮 影：理学研究科助教授 山本 仁
表紙デザイン：株式会社ココティエ

阪大 NOW No.94 2007 1月号

2007年1月15日発行

編集・発行 大阪大学総務部評価・広報課 〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 1-1

TEL: 06 (6879) 7017 FAX: 06 (6879) 7166

ホームページアドレス <http://www.osaka-u.ac.jp>

「阪大NOW」へのご意見、お問い合わせ、記事の提供等がありましたら、下記までお寄せ下さい。

E-mail: souhyokoukohou@ns.jim.osaka-u.ac.jp